

国民民主

KOKUMIN MINSHU PRESS

国民民主党 国民民主プレス 編集部

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-3Nagatacho GRID 4F

TEL : 03-3593-6229 MAIL : info@new-kokumin.jp H P : new-kokumin.jp

こくみんみんしゅ
Press

号外

2025年2月

【連絡先】国民民主党茨城県第5区総支部(浅野さとし事務所)

国会事務所

〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館406号室
TEL : 03-3508-7231
FAX : 03-3508-3231

日立事務所

〒317-0071
茨城県日立市鹿島町1-11-13
TEL : 0294-21-5522
FAX : 0294-21-3014

公式サイト

<https://asanosatoshi.com/>



衆議院議員
浅野さとし

特 別
対 談

日立市長
小川春樹

安全・安心で活力に満ちた 夢や希望を抱けるまちの実現に尽力

2025年特別企画として、本年も1月20日に小川春樹 日立市長との特別対談を実施させていただきました。対談では、人口減少、日立市の将来、「103万円の壁」の引上げ等について取り組んだ2024年を振り返り、今後のまちづくりの展望についての思いを語っていただきました。

2024年を振り返って

市制施行85周年 合併20周年、節目となる年

浅野衆議院議員 (以下、浅野) 本日はよろしくお願いたします。はじめに昨年を少し振り返りたいと思うのですが、2024年は、お正月から能登半島地震や航空機事故が発生し、試練のスタートとなった年でした。また、政界では都知事選挙や衆議院総選挙などの大型選挙が続き、主要政党の党首も一斉に代替わりした年でした。また、ドジャース大谷選手の大活躍やトランプ氏の再選なども記憶に新しい出来事でした。改めて一年を振り返り、首長として印象的だったことを教えてください。

小川日立市長 (以下、小川) 浅野先生におかれましては、昨年10月の石破新首相の就任から、わずか26日後という戦後最短の超短期決戦となった衆議院総選挙で、見事、3回目のご当選を果たされ、改めて、お祝いを申し上げます。

また、12月には臨時国会の国民民主党代表質問で、「若手のエース」としてご登壇され、弁舌爽やかに「年収の壁」などを引き合いに石破首相の決意を問いただす姿は、将来を託せる次世代の台頭を感じさせ、大変頼もしく思うとともに、地元選出の先生のご活躍を心から嬉しく思ったところです。

さて、昨年は、本市の市制施行85周年、十王町との合併20周年という、節目となる年でごございました。これまでの歩みは決して平坦ではなく、間近なところでも、東日本大震災や、新型コロナウイルス感染症の大流行など、大きな困難に遭遇しましたが、市民、企業、行政など



人口減少に対する対応について話を聞く浅野議員

が一丸となって、その度乗り越えてまいりましたことは、本市が持つ力強さの表れであると考えております。

そのような中で改めて昨年を振り返りますと、4月に、日立製作所との「スマートシティの実現に向けた共創プロジェクト」が本格始動しました。本市の施策の大きな柱の一つである「持続可能なまちづくり」の実現に大きく寄与することを期待しております。

また、本市出身で、共創プロジェクトの日製側の責任者であります、徳永俊昭副社長さんが、日製の次期社長に選ばれましたことは、私にとって、これ以上ない喜びとなりました。

さらに、11月には、本市初となるフルマラソン大会「ひたちシーサイドマラソン2024」を国内外から約4,400人のランナーを迎え、開催しました。本市を挙げて盛大に開催できましたことを大変嬉しく思っています。今後は、本市の秋冬の一大イベントとして定着させていきたいと考えております。

このように、1年を通して、本市の将来につながる新たな取組を進めることができましたのは、市民の皆様のご理解とご協力があったからこそ、改めて感謝を申し上げます。

浅野 年末の代表質問の際には小川市長からも激励のメールをいただき、私自身それを励みとさせていただきました。改めてご配慮に感謝申し上げます。

また、共創プロジェクトに関しては、PJ推進室のメンバーの皆さんが地元の様々なイベントでブース出展したり、秋にはシビックセンター新都心市場周辺でのモビリティフェスなどが開催され、積極的に市民との接点をつくらうとしている姿が印象的でした。こうした施策に加

え、昨年初開催のシーサイドマラソンなどの地域資源を活かした新しいイベントも充実させていることを感じています。

人口減少に対する考え方と対策について 若者・女性の活躍応援や 子育て支援日本一を目指す

浅野 この流れでまずは、人口減少に対するお考えや行政の対応についてお聞きします。日立市においては、近年、若い方々を中心として、市内各地での様々なイベントに積極的に取り組まれている印象があります。また、市では、若者の移住支援や企業支援にも熱心に取り組まれてきたと思いますが、地元の雇用促進と定住人口の確保にむけて、現在の日立市として取り組んでいる事業について教えてください。

小川 私が市長に就任した平成27年から、本市の地方創生・人口減少対策の取組をスタートさせ、これまで子育て世代や、特に若者・女性の活躍支援などに、様々な施策をきめ細やかに、そして、間断なく展開してまいりました。

一例を申し上げますと、学生の多くが利用している奨学金の返還を、最大で全額補助することでU・Iターンを促進する取組を始め、高等学校等新規卒業生への就職祝い金や住居手当を支給する中小企業に対する支援の取組により、地元での就業と定住を促進してまいりました。

また、空き店舗に新規出店する事業者に対し、新規出店時の支援に加え、3年間継続して支援を行うことで、創業の促進と事業の継続・安定を図ってまいりました。

さらには、日立駅前大型商業施設であるヒタチエのオープンにより、約40テナントでの買い物ができる環境が整うとともに、約800人の雇用を創出し、日立駅前地区のにぎわいと活性化が図られたものと考えております。

これらの取組に加えまして、昨年は、先ほど申し上げましたシーサイドマラソンと、日立アルプスを舞台としたトレイルランニングの大会が開催され、「ひたちらしさ」を活かしたまちの活性化や、にぎわいの創出につきましても、引き続き、努めてまいりたいと感じたところです。

今後も、県北地域の中心都市としての役割をしっかりと果たし、ひたちらしさを際立たせ、将来を担う若者・女性の活躍応援や子育て支援日本一を目指す「地方創生・人口減少対策」に取り組んでまいります。

浅野 私が最近、特に重要だと感じているのは、女性の皆さんが持っている意思や能力を発揮できる場をできるだけ多く作っていく事です。茨城県全体で見れば、近年は製

造業を中心として企業誘致が功を奏し、県民所得が全国3位となるなど効果も出ていますが、一方で、男女間の賃金格差はワースト2でした。ここにチャンスがあると思います。

日立市では進学、就職、結婚などで転居していく若者が多いのですが、特に女性の転出数が多く、その理由として就職先が少ないという声が多く聞こえています。このテーマは是非、小川市長さんや地元企業の皆さんと連携しながら取り組みたいと考えています。

日立市の将来について

「サステナブルシティ」の実現に向けた挑戦を進める

浅野 私はこれまでに、日立市の将来像として「世界最先端技術・サービスの実証実装都市へ」という方針を掲げながら選挙に臨みました。日立市に根付いているものづくりの知恵と技術は、先人たちのたゆめぬ努力によって育まれた地域の宝です。昨年は、日本で初めての自動運転バス（レベル4）の認定を取得し、本年2月から日本初＆本格的な実証運行が日立市内でスタートすることとなりました。これから本格化する共創プロジェクトについても、今年の見通しなどを教えて下さい。

小川 「ひたちBRT」については、営業運行を目指す車両が、昨年11月に中型の路線バス車両としては全国で初めて、国から自動運転レベル4の認可を取得しました。ご案内のとおり、本年2月からは、特定条件下における自動運転レベル4による営業運行を開始する予定です。

現在、市内では運転手不足などにより路線バスの減便や運行時間の短縮を余儀なくされておりますが、安心して働き、暮らせるまちをつくるためにも、引き続き、国と連携して「ひたちBRT」とその周辺地区での自動運転の取組を進めてまいります。

前にも述べましたが、昨年4月に、日立製作所と本市は、新たな官民連携をスタートさせました。前例にとられない新たな発想を持ちながら、未来に向けて、皆さまと共に手を携え、共に考え、共に行動し、次世代につながるデジタルを活用した「サステナブルシティ」の実現に向けた挑戦を進めています。

私は、本市には、市民、企業、行政が協力できる下地があると考えております。決して立ち止まらず、新たな成長を呼ぶ「未来への投資」を進め、両者で社会イノベーションという新風を巻き起こしていきたいですね。

浅野 実は、私自身も初当選した2017年当時から、自動運



「サステナブルシティ」の実現に向けた挑戦について語る小川市長

転の国内普及に取り組んでおり、2019年の国会では自動運転を解禁するための法案審査に関わりました。今回、日立市において、全国初の自動運転レベル4の営業運行がスタートすることになったことを非常に感慨深く感じています。今後も「日本初」や「世界初」というものが、ここ日立市から発信していけるように、私も精一杯協力していきたいと思っています。

「103万円の壁」の引上げについて

地方財政に支障がないよう国に対応していただきたい

浅野 昨年の総選挙が終わった直後から、国民民主党が掲げたいわゆる手取りを増やすための「103万円の壁」の引上げに、多くのご注目をいただいています。現在（12月時点）は、自民党及び公明党との政策協議が進んでいる状況ですが、本施策に対する市長の見解や期待する内容があれば教えてください。

小川 賃金が上昇しても社会保険料や物価が上がっており、多くの労働者は手取りが増えたという実感を得られていません。また、パートやアルバイトなどの「働き控え」が人手不足の要因にもなっており、「103万円の壁」の引上げは、必要なことと考えております。

一方で、多くの自治体が懸念しているとおり、住民税の減収による行政サービスへの影響は大変大きいものとなりますので、地方の財政運営に支障が生じないよう、代替財源の確保を含めて、国にしっかりと対応していた

だきたいと思います。

浅野 全くその通りだと思います。地方財政への影響を抑制するという思いは、全く同じものがありますので、私としても103万円の壁の引上げに当たっては、その点に十分に意識を向けていきたいと思っています。

2025年に向けて

時代の変化や様々な課題を 未来への推進力に変えていく

浅野 最後の質問になりますが、2025年に向けて小川市長ご自身の抱負を教えてください。

小川 2025年は、終わりの見えない物価高騰や、地球温暖化を一因とした激甚化する災害への備えをはじめ、本市の戦後の経済成長を支えてこられた団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となるなど、幾多の課題が複雑化・多様化をしながら一層深刻になるものと捉えております。

こうした中、今年の十二支「巳年」のごとく、行財政運営に係る従来の手法やルールといった既成概念から臆

することなく「脱皮」し、時代の変化や様々な課題を未来への推進力に変えていかなければならないと認識を新たにいたしましたところでございます。

本年は本市のまちづくりの道標である総合計画前期基本計画が、5年計画の4年目を迎えることとなります。これまでの取組を検証しながら、目標とする将来都市像である「共創で新たな歴史を刻む次世代型みらい都市 ひたち」の実現に向け、計画に掲げた重要事業を着実に推進してまいります。

今後も、「ひたちらしさ」を際立たせながら、安全・安心で活力に満ちた、誰もが未来に夢や希望を抱けるまちの実現に向け、市民の皆さまと共に手を携えながら、元気と魅力あふれるまちづくりに尽力いたします。

浅野 今後の日立市の未来にむけては、私も共創の輪に加わりながら頑張りたいと思います。また、冒頭話題に挙がりましたが、昨年は日立市にとって節目の年でした。一方、本年は戦後80年、阪神淡路大震災から30年が経過する年となります。改めて、日本全体の無病息災を願うとともに、ウクライナや中東地域で暮らす人々に、一日も早い平和が訪れることを願わずにはいられません。本日は様々なお話をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。

浅野さとし プロフィール

略歴

- 1982年9月生まれ
- 2005年3月 青山学院大学工学部卒
- 2007年3月 青山学院大学大学院理工学研究科修了
- 2007年4月 株式会社日立製作所 日立研究所入社
- 2013年8月 日立製作所労働組合研究所支部執行委員
- 2015年9月 大島章宏衆議院議員秘書
- 2017年10月 衆議院議員初当選(第48回衆議院選挙)
- 2021年10月 衆議院議員2期目当選(第49回衆議院選挙)
- 2024年10月 衆議院議員3期目当選(第50回衆議院選挙)



日立事務所

〒317-0071 茨城県日立市鹿島町1-11-13
友愛ビル1階
TEL 0294-21-5522
FAX 0294-21-3014
Mail:contact@asanosatoshi.com

ご意見
ご要望

国会事務所

〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館406号室
TEL 03-3508-7231
FAX 03-3508-3231
MAIL:contact@asanosatoshi.com

